

「幼児の教育」復刻の第三期（第四十五卷——第五十二巻）が出版されることになった。今回の復刻は、これで完了することになる。第三期分は、昭和二十一年から昭和二十八年までであって、丁度戦争直後の時期に相当する。

戦時中しばらく休刊となっていたこの雑誌は、昭和二十一年十月に復刊第一号が出された。私は兵隊から帰り、ガラス窓の破れた大学の教室で、軍隊の外套をかぶって講義をきいていたところである。食糧はなく、日本中貧乏だったけれども、戦争が終って、平和が来たのだという、心の底の明るさがあった。何もかも焦土となったところに、文化国家の再建、日本の復興という希望が、人々の心にあった。それから三十五年を経て、軍備拡張の記事が新聞に載らないことはなく、平和憲法の確信が揺らいでいる現在、戦後の日本の原点とも言えるこの時期の幼児教育誌が復刻されることは、特別な意

味があるように思う。

その復刊第一号（昭和二十一年）の記事に、当時愛育病院の院長であった小児科の斎藤文雄氏による次のような文章がある。「この頃の幼児の保健問題、考へてみれば誠にみぢめな状態で可哀想な子供達である。客観的に冷静に記事を扱ふのが科学者の責任であるが、あまりにみぢめで、堂々と世界に向つて発表する勇氣もないくらいである。……」このころに生きていた人は、この記事を見れば、すぐに思い出す光景がいくつもあるに違いない。現在とひき比べていろいろのことを考えてしまう。「東京は道路を除いて一面の蔬菜畑。匍ふ諸の蔓、竹柱に登る南瓜の蔓……自然の色の美しさは、敗戦国だつて変りはない。」同じく第一号の倉橋惣三の文章である。現在を見ると信じられないほどだが、今の日本の原点であることは疑いえない。原点は常に立ち返る所である。（津守 真）

幼児の教育

第八十巻 第十号

十月号 © 定価二七〇円

昭和五十六年九月二十五日 印刷

昭和五十六年十月一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 発行人 津 守 真

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします

※万一製品不良品がございましたら、おとりかえいたします。